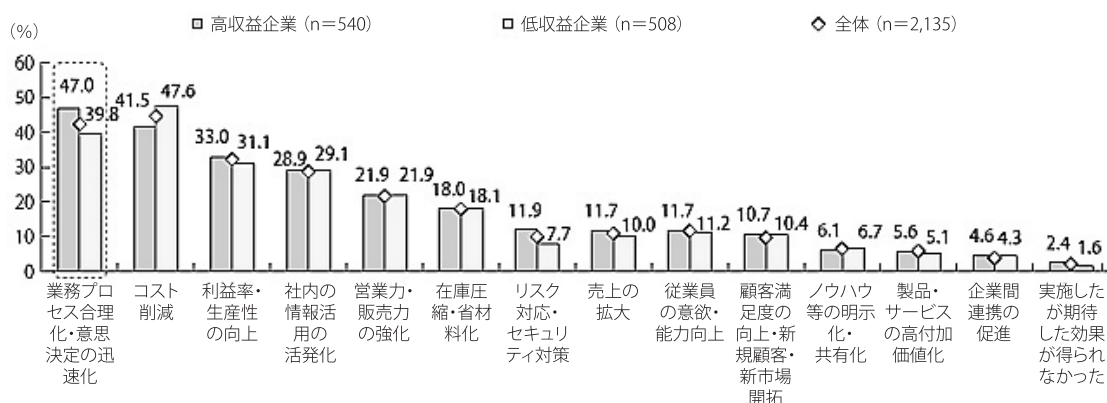


中小企業のIT活用の効果と活用の実態

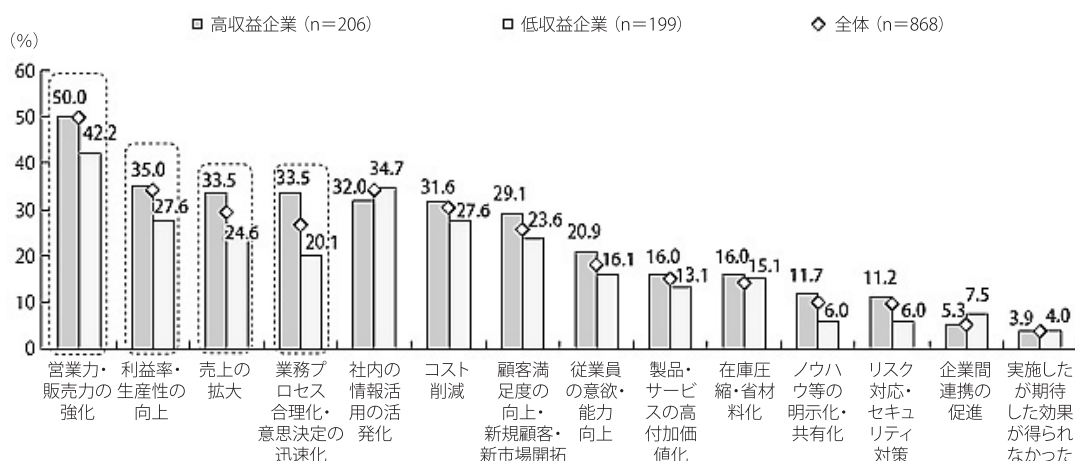
次に、高収益企業と低収益企業で、IT投資を行ったことにより得られる効果の違いについて見ていく。第2-2-13図は、「業務効率化のための基幹系システム」と「付加価値向上のための業務支援系システム」の二つのIT投資を行ったことによる効果を高収益企業と低収益企業で比較したものである。これを見ると、業務効率化のための基幹系システムの効果について、高収益企業は「業務プロセス合理化・意思決定の迅速化」の割合が最も高く、低収益企業に比べて効果を実感している企業が多い。また、付加価値向上のための業務支援系システムの効果についても、高収益企業は「業務プロセスの合理化・意思決定の迅速化」を筆頭に、「売上の拡大」、「利益率・生産性の向上」、「営業力・販売力の強化」の効果について、低収益企業に比べて効果を実感している企業が多いことが分かる。以上の結果より、IT投資により得られる効果について、高収益企業の方がよりプラスの効果を実感していることが分かった。同じIT投資を行えば同じ効果を実感できるのであれば、高収益企業と低収益企業とで顕著な差は見られないはずである。ここからも、高収益企業は、IT投資の効果を実感し業績を更に向上させるための取組を行っていることが考えられる。

第2-2-13図 【高収益、低収益別に見たIT投資の効果】

(1) 業務効率化のための基幹系システムの効果



(2) 付加価値向上のための業務支援系システムの効果



資料：中小企業庁委託「中小企業の成長と投資行動に関するアンケート調査」（2015年12月、(株)帝国データバンク）
 (注) 複数回答のため、合計は必ずしも100%にはならない。